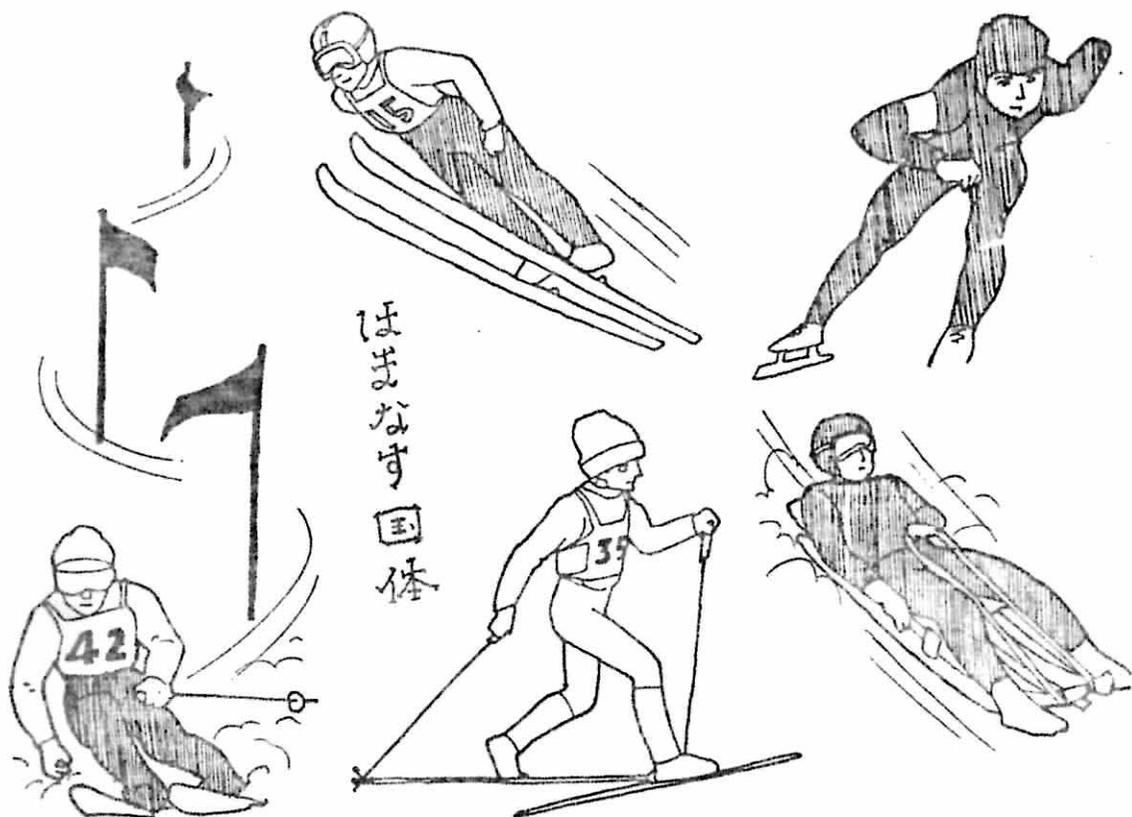


たんちやう

発行日
平成元年2月13日
2月号
第106号
編集発行
釧路地方腎友会
釧路市新富町1-7
林田クリニック内



◎目次◎

- ・新年を迎えて ————— 会長橋本巖 ————— 1
- ・新年会に参加して ————— 市立病院 ○ ○ ○子 ——— 2
- ・私のハワイ旅行 ————— 林田クリニック 鈴木大地 ————— 3・4
- ・広瀬正誉さん（60年移植、目赤）のお父さんから年賀状 ————— 5
- ・昭和63年度年賀状取扱い実績表 ————— 5
- ・釧路地方腎友会6病院の患者数の推移 ————— 6
- ・クロスワードクイズ・回答・当選者 ————— 7
- ・会員の動向・おくやみ・お知らせ、その他 ————— 8

新年を迎えて

会長 橋本 巖



63年間続いた昭和という時代にもピリオドが打たれ、新しい年が始まりました。政府自民党による消費税のゴリ押しは、時代の流れを無視した行為といわざるをえません。当然、医療費にもその影響が出てくるでしょう。私達のように高額医療をうけなければならない者にとって、ますます不安がつのってくる問題です。

新年度、全腎協の運営委員会では負担金を100円から150円に値上げするかどうかが検討しているところです。もし、負担金が値上げされたら、道腎協→釧腎会と影響は避けられないでしょう。

一方、かねてから運動をすすめてきたJR運賃の身体障害者割引制度対象範囲の拡大について、昨年12月に開かれたJR六社の営業部長会議で、六社は基本的にその実施に合意しました。しかし、六社のトップレベルの合意にまで至っていないこと、運輸省が依然消極的な姿勢を示していることなどから、その実現にはなお時間が必要とみられます。このように展望が見えるにいたったのは、我々の国会請願署名運動とその採択など、各内部障害者関係団体の活発な運動によるところが大きいと思われま

す。更に運動を強めていくことが必要でしょう。

腎バンク登録者数は63年末現在、21万3332名となっており、まだまだの感があります。一般市民に登録を呼びかけるだけでなく、患者の家族も登録してくれるようにしていきたいものです。

平成という時代も私達にとって厳しいことには変わりありません。患者会の必要性がますます問われてきています。いざという時に、結東できる一人一人の会員でいたいものです。

新年会に参加して



市立病院 ○ ○ ○子

平成元年1月22日の日曜日、釧路地方腎友会の新年会がありました。栄町会館の3階の会場に入ると40名ほどの人がそろっていて間もなく始まるころでした。橋本会長の挨拶に続いて、高橋宏政顧問がこれからの腎友会のかかえる課題などについてお話いただきました。そのあと、乾杯をしていよいよ宴会。テーブルに出された料理はチャーハン、焼きソバ、ザンギ、オデン、フルーツなど量・質ともにvery goodとても食べきれませんでした。ビールやワイン、ジュースも飲める範囲でいっぱい飲みました。ひととおり食べ終わって、お腹が満腹になったころ、幹事さんの金井、長岡両副会長、そして東さんたちがゲームをしてくれました。

最初はビンゴゲーム。数字が並んだカードが配られて、幹事さんが数字を書いたクジを一枚ずつ引いて読み上げます。みんなは呼ばれた数をつぶして行って早く5個並んだ人が上りです。いつもやっているゲームなのでとても力が入りました。

私は6番目に上がって、桃とミカンの缶詰めがあたりました。

二つ目のゲームでは、箸を使ったゲームでした。

一人対一人で箸を持ち、一本の棒を取り合うのです。箸の使い方が下手な人がいて、みんなに笑われていました。わたしも下手なのでおおいに笑われました。

三つ目のゲームは電報ゲームでした。

チーム8人の2チーム対抗で、片仮名3文字たとえば「テレビ」ということばを背中に順番に書いていって、8人目の人が答を紙に書きます。早くできたチームが勝ちというゲームです。私のチームは一番最後まで残って優勝し、伊藤武一顧問賞をいただきました。これらのゲームのとき、林田クリニックの中島代千男さんからたくさんの景品が寄贈されたとのことでした。ほんとうにありがたいことでした。

この後、男の人たちはマージャンをしていました。わたしは、2時30分頃に帰りました。お世話してくれた幹事さんほんとうにありがとうございました。今回参加できなかった皆さん、今度のレクリエーションには一緒に参加しませんか。きっと気晴らしになりますよ。



私のハワイ旅行

林田クリニック 鈴木 大地

私は、昭和62年11月28日に結婚し、新婚旅行に行く事になったのですが、海外に行くには透析や様々な面で面倒なので、ハッキリ言って気がすすみませんでした。

私は沖縄あたりでいいと思いました。沖縄だと国内だし、言葉だって通じるし、何かあっても大丈夫だと思いました。

でも、妻が「行くなら今しかないんだよ。後から行こうと思っても、中々いけないよ思いきって行こう。」と説得されて、ようやく、その気になりました。

結婚式の日の夜は駅前の東急インに泊り、翌日 東京に向かって出発しました。

その日は、ディズニーランドに行って夜遅くまで遊んでいました。次の日は、朝から東京南田町クリニックで透析しました。この病院はリクライニング式ベッドで、弁当も食べる人、食べない人、出前をとる人、自分で持ってくる人、更には病院の食事を食べる人と様々でした。妻は、私が透析をしている間、東京の町をあっちこっちブラブラしていたそうです。東京の病院のスタッフの人達は皆、親切にしてくれました。この病院の先生が「東京に来た時はいつでもやってあげるから、来る前に電話をかけてくださいね。」と言ってくれました。

透析が終わって、いよいよハワイに向けて夜の出発です。少しブラブラしてから成田空港に向かい、五泊七日の旅に出ました。飛行機に乗っても、まだ不安がいっぱいで、なんか変な気分でした。それでも、いつの間にか眠ってしまい、目が醒めたらハワイホノルル空港についていました。着いた途端、回りの景色と温暖な気候、それに すばらしい青々としたヤシの木を見て、今までの不安もふっ飛びました。

まず、入国手続きをしてからバスに乗り込み、ホノルルの観光巡りをして、夕方ホテルに着きました。

二日目からは、オプションツアーで帰る日まで自由、オプションツアーは、その行く場所や、乗物、時間によって色々なので、透析の日はなるべく6時までに帰ってこれるように選んで行きました。私達二人はパールハーバーとパイナップル畑に行ってきました。パールハーバーには、第二次対戦当時の潜水艦や大砲、写真など戦争の傷跡が残されていました。

パイナップル畑では、100%のパイナップルジュースを飲ませてもらいました。

畑は本当に広くどこまでも続いていました。

ホテルに帰ってきてから透析にいきました。透析も近畿日本ツーリストの人が、病院での付き添いさんを手配してくれたので安心して治療を受けることができました。

病院は、ちょっと山奥でしたが、とても大きな病院で、ホテルを三つ四つ合わせたぐらいの大きさでした。名前は、セント・フランシスホスピタル (セント・フランシス

メディカルセンター) という所で、透析の部屋は 全部で三つでした。

一つは、私みたいに仕事をしていて元気な人専用。二つ目は、入院している人専用。

三つ目は、二重障害の人専用でした。

向こうの人は、終わった後に自分で後片付けをして帰ります。足がつっても、薬を入れるとお金がかかるので、何も入れません。立ち上がったたりしながら、おさまるまでこらえていました。ダイアライザーも、自分のを3回から4回洗って使っているそうです。ダイアライザーを洗う機械も見してきました。日本は、それに比べたら本当にめぐまれています。食事は自分で買ってきて食べました。

三日目は、ジェットスキーとハナウマ湾見学でした。ハナウマ湾は本当にきれいで、ワイキキビーチより もっとハワイに来たという感じがする所でした。とにかく、サンゴがきれいで、熱帯魚がウヨウヨいて 人間が近づいていっても逃げませんでした。

魚の色は鮮やかでしたし、何よりも海の色がエメラルドグリーンですごくきれいでした。四日目は、朝からパシフィックビーチホテルに近い、動物園に行って遊びました。

動物園で驚いたのは、孔雀の放し飼い・すごい数の白鳩・フラミンゴも柵がないことなどでした。動物園から帰ってまた透析でした。一日おきの透析でした。

病院まではホテルの車(リムジン)で送ってもらいました。帰りはリンカーンで送ってもらいました。急に高級車で送り迎えをされると、金持になったようで良い気分でした。五日目(最後の日)は、街で買物をしたり、お土産屋をみて歩きました。

夕方からはサンセットクルーズ(船上から夕日を見る)でした。

船でワイキキの沖へ出て、船内で豪華にロマンチックな夕日を見ながら、カクテルを飲んだり、酒を飲んだり、食事をしたりするのです。船内でショーを見たり、歌を歌ったりしているうちに夕日が水平線に沈んでいくのが とてもきれいでした。帰りに反対側を見ると、ホテルの灯りや街のネオンがすばらしく感動しました。

こうして楽しいハワイ旅行を終えてみると、結局、私が心配していたことは何でもないことでした。透析患者だからといっても何も心配いりませんでした。皆さんも勇気を出して、一度ハワイへ行って見てはどうですか。本当にいい思い出ができますよ。



広瀬 正誉さん（60年移植・日赤）の

お父さんから年賀状

初春のおよろこびを申し上げます

早いもので都立清瀬小児科病院の門を叩き5年が過ぎました。我が子も、昨年10月にて移植3年目を迎えました。免疫抑制療法による左無菌性大腿骨頭壊死により補装具をつけたり、何度もトラブル苦難の道が有りましたが妻子とも力一杯頑張っております。まだまだ北海道いや釧路では移植後の監理が無理なようです。残念です！

一日も早く会員皆様の移植が叶うよう心よりお祈り申し上げます。

釧路市昭和4 1-3 284 広瀬 正実

- ◆ 広瀬正誉さんは現在14歳で、お母さんから腎臓を貰いました。しかし、後遺症が多く苦勞されているようです。早く元気になって帰釧されるよう願っています。

昭和63年度年賀状取扱い実績表

病院名	件数	取扱い総額	腎友会利益
市立	402	2144,560	191,460
林田	513	2645,800	220,485
日赤	111	612,800	55,730
協立	480	2728,990	234,350
厚岸	153	814,780	70,480
合計	1659	8946,930	772,505

SS
売りに上げて3割以上昨年を下回りました。
厚岸分は全て厚岸独自の収入となりますので、釧路分の利益は70万円ほどになります。

※ 会員の皆様には、この売上げの中から購入した記念タオルを既に配布済みです。まだタオルはありますので、どうしてもあと少しほしいという方は事務局まで申し込みを。

釧路地方腎友会6病院患者数の推移

昨年4月から今年1月までの患者数

病院名	634世の転診	透析予備軍(非会員)	移植者
市立	82	70 (19)	1
日赤	26	19 (8)	1
労災	16	17 (15)	0
協立	20	21 (3)	2
林田	46	42 (5)	4
厚岸	16	22 (3)	0
合計	206	191 (53)	8

- ◆ 釧路地方腎友会の患者数は上記のとおりです。
- 昨年の10月頃より亡くなられる方が多く、総数は減少しています。しかし、各病院とも透析予備軍といわれる人がいるため、増えることが予想されます。釧路市内5病院、厚岸あわせて透析機械台数は100台くらいで、いずれの病院も受け入れに余裕はない状態です。
- ▲ また、見ておわかりの通り、非会員の数も50名を越えております。これらの方が少しでも入会していただけるように勧誘をしていく必要があると思います。

会員の動向

◎新患者

・石川テツ子

釧路

市

・佐藤倭慶

厚岸町



お知らせ

昨年12月に亡くなられた千葉賢蔵さんの奥さまから10万円の高額な御寄付をいただきました。一度は、御辞退申し上げたのですが奥さまの強い希望がありましたので、お受け致しました。本当にありがとうございました。

また、難病連の釧路支部事務局長渡辺小夜子様から1万円の御寄付をいただいております。これらの志しを会の運営のために大切に使用させていただきます。

◎変更事項

・吉田ミツ子・日赤病院・釧路市若竹町

◎おくやみ

伊藤 キミ・日赤病院・63年10月22日死亡
千葉 賢蔵・市立病院・63年12月死亡
谷田部 ムミ子・日赤病院・63年12月16日死亡
田中 トシ子・市立病院・平成元年1月25日死亡
横沢 俊彦・市立病院・平成元年1月28日死亡



訂正

12月号で死亡のところ 大山リヨとなっていたところは大山トニムの誤りでした。

訂正してお詫び致します。



